

「ゆうくん、『ねこねこがっこう』に  
きちや だめだよ」

「わっ、にやおが しゃべった！」  
ゆうくんは びっくり。

「ちがうよ。ゆうくんが、

ぼくの ことばが

わかるんだよ。

たぶん、ねこねこがっこうに  
いるときだけね」



にやおが おひげを ぴんと こすって  
いいました。

「ここ、ねこねこがっこうじゃないよ。

みどりまちしょうがっこう小学校だよ」

「にちようびは ねこねこがっこうさ。

それより ゆうくん、かえって。ここは

ぼくたちの ひみつの がっこうなんだから」

そのとき、おお大きな ちやいろの ねこが  
はいつてきました。





「あつ、せんせいだ。

ゆうくん かくれて！」

「せんせい？ となりの

かとうさんちの ちゃちゃだよ」

ゆうくんは わらって いました。

「はい みなさん、せきに ついてー」

ちゃちゃは のしのし あるいてくると、

やまだせんせいの つくえの うえに

とびのりました。

「みなさん おそろいですね。では、

ねこねこがっこうを はじめましょう。

……おや？ のぞいているのは

だれですか？」

「ぶにゃあ、にんげんだ！」

